

次は常楽寺です





市指定有形文化財（建造物）

上田市文化財保護条例第五条の規定により左記のとおり指定する。

記

- 一、種 別 有形文化財（建造物）
- 一、名 称 常楽寺 本堂
- 一、所在地 上田市大字別所温泉二三四七番地
- 一、指定年月日 平成九年四月九日

この本堂は、奇棟造、茅葺の建物で、正面中央に唐破風の向拝を付けています。間取りは、前側に細長く広縁をとり、中央に外陣・内陣があり、その両脇に部屋を配置する構成で、内陣の左脇の部屋が「上段の間」となっています。この間取りは当初からのもので、ほとんど改造されていません。また、間口が十間（約18m）あり、長野県内の江戸中期後半の天台真言系本堂として屈指の規模を持っています。寺の「分限帳」によれば、客殿（本堂）・本尊・庫裏の建立は四十六世翁玄の代（一七〇〇、三六在住）で、本尊の妙觀察智阿弥陀如来坐像には享保十年（一七三二年）の墨書があり、本堂の再建も本尊入仏と同じ享保十七年頃であったと考えられます。建物の様式をみても、虹梁の繪様・組物・欄間などのように十七世紀後期の比較的古い様式を示す部分と、柱が一間ごとに立たないという十八世紀中期以降の特色が混在しており、享保末期～元文期（一七三〇年代）の建築と考えられます。ただし、庫裏破風の向拝部分は、様式が本堂と若干異なっており、後に付け加えられたとみられます。

本堂の意匠は彫刻的な装飾は少なめですが、これは江戸中期に属する本堂の特色で、常楽寺本堂は江戸中期後半の特色をよく示した貴重な建築といえます。

平成九年四月

上田市教育委員会

常楽寺 (市指定文化財)

この寺は天台宗金剛山照明院常楽寺といい北向観音の本坊で、本尊は妙観察智阿弥陀如来、開山は慈覚大師と伝えられている。京都南禅寺の開祖大明国司が正応5年(1292)に信濃の国塩田別所常楽寺で十不二門文心解を書写した文献があり古くから学問寺として舌高く創建当時より舌僧高僧がここに錫をとどめている。いまの本堂は江戸中期の享保年間(1716～36)に建立されたもので別所三楽寺{常楽、安楽、長楽(消失)}の一寺として多くの信仰をあつめている。

Jorakuji Temple

This temple is closely related to the Kitamuki Kannon. Its founder is said to have been the great teacher Jikaku. It hosts sacred texts hand-copied by the founder of Kyoto's Nanzenji Temple in 1292, and has long been famous for being a temple of academic study. The current main structure was built in the middle Edo period (1716 - 1736), and has gathered many adherents of different sects.



本堂/江戸時代中期後半/上田市文化財



この屋根もこの地域独特？なのか変わった形をしている(他の寺院の屋根参照)





樂台寺





この「庫裏破風」は後に付け加えられたものだという









纒型の付いた舟肘木









更に登ります



さまざまな石仏(庚申塔)



一番の見所、石造多宝塔(重要文化財)等です



石造多層塔群は上田市指定文化財となっている



↑
宝篋印塔

↑
多宝塔/重要文化財

重要文化財 常楽寺石造多宝塔

種 別 建造物・石造文化財
所在地 上田市大字別所温泉二三四七番地
指定年月日 昭和三六年三月三三日
材質・寸法 安山岩・総高一七四センチメートル

銘文によれば、天長二年(八一五)、火焰の中から北向観音がこの地に出現した。そこで、木造の宝塔を建立したが、寿永年間(一一八一～八四)に焼失した。弘長二年(一一六二)本塔を造立し、金銀泥で書かれた一切経一部を奉納したとある。

石造多宝塔の類例は全国的に見ても少なく、特に重要文化財指定となると、本塔と滋賀県の小菩提寺の二基にすぎない。さらに本塔は、笠や裳階が鎌倉時代の多宝塔の典型を示しており、全国的に見てもたいへん貴重な遺例である。

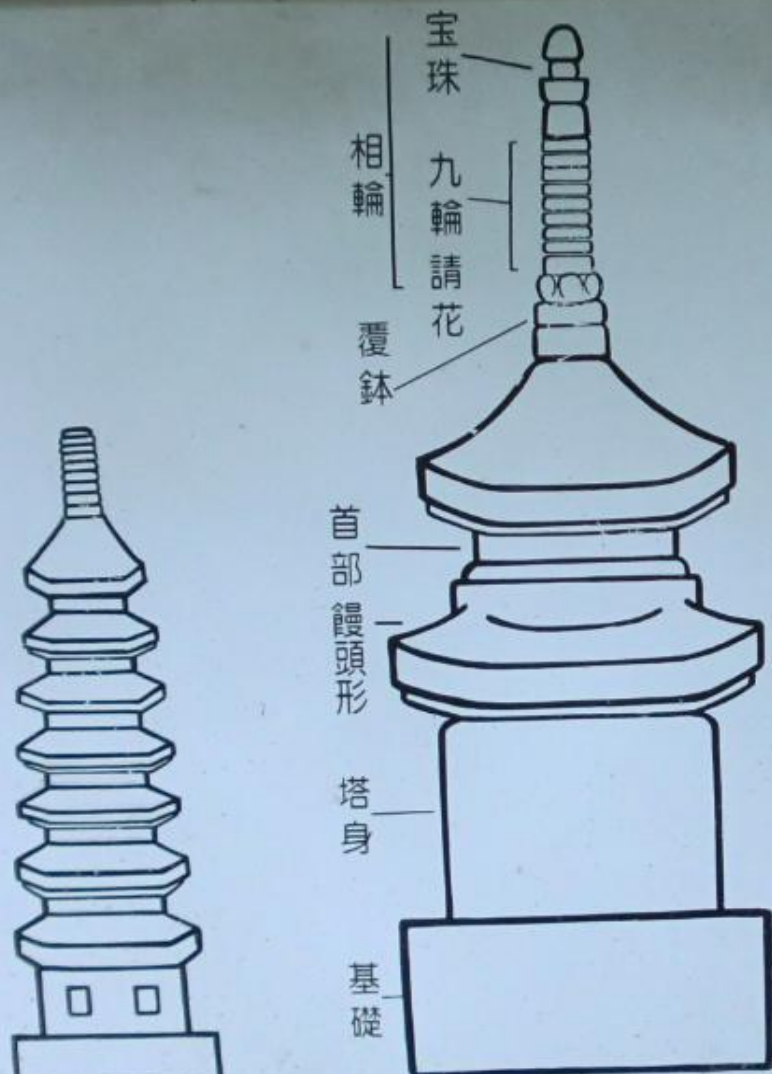
上田市指定文化財 常楽寺石造多層塔

種 別 建造物・石造文化財
所在地 上田市大字別所温泉二三四七番地
指定年月日 昭和五九年四月九日
材質・寸法 安山岩・総高一六三センチメートル

大正二二年(一九一四)、別所温泉大島屋旅館裏で水道工事を行つていた際、地中からたくさんのだ宝塔・多層塔・五輪塔・宝篋印塔が散乱状態で発見された。この石塔群はその後散逸してしまつていたが、当地の篤学者が関西の旧家にあるのをつきとめ、懇願して昭和五六年、故郷の当地に再建された。

各部位のバランスや形は、古様をよくとどめ、鎌倉時代の作になるものと思われる。

平成五年三月 上田市教育委員会



(重文)石造多宝塔



宝珠の下に竜車・水煙をつけることあり

(市指定)石造多層塔

多宝塔/鎌倉時代



宝篋印塔



常樂寺美術館







仏教を通じ平和を希う

常楽寺前任職、半田孝海と仏画で知られる 荒井寛方は不殺生戒を説いた仏陀の教えに従い、共に心から平和な世界を望んでいました。米国で同時多発テロが起き、それをきっかけに米国がイラクで戦争を始め、世界平和が揺らいでいます。今こそ、平和を希求した二人の生涯に改めて注目したいと思い立ち、交流がはじまって70年となるのを機会に両人の友情を讃える記念碑を建立しました。

半田孝海

明治19年茨城県生まれ。東京大学卒業。大正6年から昭和36年まで常楽寺住職。寺は社会のためにあるべきとして、社会活動に従事。大正11年から昭和5年まで信州婦人夏期大学を開講、自ら大学長、講師を務める。さらに、平和国家建設を唱え、原水爆禁止運動の先頭に立つ。中国との友好にも力を注ぎ、中国人捕虜殉難者の遺骨送還に奔走し、日中友好協会副会長を務めた。昭和25年大僧正。善光寺大勧進名誉賓主。昭和49年遷化。享年89歳。

荒井寛方

明治11年栃木県生まれ。日本画家。日本美術院に入り、同人となる。大正5年、インドの詩人・タゴールに招かれて約2年インドに滞在し、タゴール大学で日本画教授を務める。この間、アジャンタの壁画を模写。帰国後、仏画の制作に励み、代表作に「竹林の聴法」「蓮葉観音」など。北向観音堂本尊である千手観音の靈験を描いた「紅葉狩絵巻」など多数の作品を常楽寺に奉納。法隆寺金堂の壁画を模写中の昭和20年没。享年67歳。

平成16年10月

設立者・半田孝海・常楽寺住職・比叡山古探頭大僧正
：寛方・タゴール会会長
協力・寛方・タゴール会



Peace

こんな燈籠がありました



こんな燈籠もありました



ここもかなりの高台です



常楽寺

天台宗別格本山
北向観世音本坊

Jōraku-ji Temple



常楽寺美術館◆主な館藏品



重要美術品 絵馬「三浦屋園」
有賀常近筆 江戸時代



長野県重文 菅原道真像
室町時代 応永二年(1395)



宝塔文軒丸瓦 平安時代

【年中行事】

初詣 大晦日から元旦
修正会 元旦から5日
初縁日(古礼供養) 1月25日
節分逆撒法要(年男男女豆撒き) 2月3日
大般若転読法要(智恵のだんご祭) 3月25日
四万六千日功德日 8月9日・10日
御縁日(北向観音火坑出現縁日) 11月25日

緒護摩・御祈祷のご案内

- ・願旨(厄除・家内安全・商売繁盛・身体健全・交通安全)のうち2つまで選べます。
- ・護摩・祈禱の時間は、午前6時(冬は7時)、10時半、12時、13時半、15時に行っています。
- ・団体法要につきましては法務所にご連絡下さい。

宗教法人 **常楽寺**

〒386-1431 長野県上田市別所温泉
TEL.0268-38-2040 FAX.0268-38-8545

常楽寺

天台宗金剛山照明院常楽寺は北向観音をお護りする本坊です。善光寺に詣でて「未来往生」を祈願し、この北向観世音に参詣し「現世利益」を祈願しなければ「片詣り」になると言われています。北向観音堂は、平安時代初期の天長二年（八二五）、比叡山延暦寺座主の慈覚大師円仁により開創され、その際別所三楽寺（長楽・安楽・常楽）の一つとして建立されたのが常楽寺です。爾来当寺は天文教学の道場であると共に信仰の場として今に至ります。

本堂裏にある石造多宝塔は、北向観世音様が出現した所で、高さ二メートル八五センチの安山岩で出来ており、国の重要文化財に指定されています。本尊は、宝冠を頂いた珍しい阿弥陀如来像で、妙觀察智弥陀如来と呼ばれています。また、常楽寺美術館には代々守られてきた寺宝の数々、北向観音堂に奉納された絵馬、蒐集された古瓦、近代絵画等が收藏・陳列されています。



重要文化財 石造多宝塔 高さ2m85cm



常楽寺本尊 妙觀察智弥陀如来



北向観音境内